

全国書誌通信

No. 97

1996. 9. 30

国立国会図書館

目次

*話題 '96 *グーテンベルク銀河系の懐..... 2

和図書全国書誌データの現状とその改善のために..... 3

1. 「全国書誌」データの提供の現状
2. 和図書書誌データの作成の現状と今後
3. JAPAN/MARCの今後 -その改善に向けて-

和図書書誌データ統計.....12

国立国会図書館ホームページについて.....13

NDC (日本十進分類法) 9版の採用について.....18

ゲーテンベルク銀河系の懐

中野捷三

いささか旧聞に属するが、本年3月14・15の両日にわたって当館新館講堂において行われた「国際シンポジウム・21世紀の国立図書館」の基調講演のなかで、ノルウェー国立図書館長B・ルーガース博士は、紙への活字印刷術の発明から現代に至るまでの500年間に形成され、現に形成されつつある情報世界を、タイトルにみるような言葉で表現した。ゲーテンベルク銀河系——、なるほど、うまい表現の仕方があるものだと思った。

その後調べてみると、この表現は必ずしも博士の造語能力の冴えの負うものではなく、たとえば、「ポスト・ゲーテンベルクとギガビット：図書館員と電子革命の出現」、「ポスト・ゲーテンベルク銀河系：ここからそこへ」というような海外の論文のタイトルにみるように、ネットワークを伴った仮想的な電子空間（電脳空間 Cyberspace）と対比されてしばしば使用されているものであるらしいことがわかった。

21世紀の初めごろには、国立図書館に求められる情報は2種類あって、これまで我々が築いてきたゲーテンベルク銀河系からのものと、そこから急速に遠ざかりながら膨張し続ける電脳空間からのものとなろう、と博士は言う。30年後には出版物の70%は電子的形態でのみ出版され、残り30%についても（本の形で出版されはするが）、電子媒体でも入手可能という状況になっている、という予測もある。

それにしても言うべきか、そうであっても書くべきか、あるいは、それだからこそと述べるべきなのか、昨今の電脳空間についての本の多さは、一体どう考えたらいいのか。関心が高いからと言ってしまえばそれまでだし、出版すれば売れるということもあろう。汗牛充棟などというカビの生えたような表現には全く似合いそうもないカタカナとローマ字の組み合わせのタイトル、カラフルな装丁、それに一様に無線とじ。まとまれば全体的に躍動感はなくもない。

陸続と出版されるこれらの本や雑誌は、見方を変えれば、来るべきあるいは現にきている電脳空間への頌歌であると同時に、ゲーテンベルク銀河系への挽歌とも受け取れようか。すれば、活字印刷という自らの最勝最優の武器を用いて自らを葬ることにつながる営為をあえて厭わないうゲーテンベルク銀河系の懐の深さは、讃えられるべきである。

（なかの しょうぞう 図書館長）

和図書全国書誌データの現状とその改善のために

はじめに

和図書の「日本全国書誌」データが、今大きく変わろうとしています。当館和図書書誌データ作成部門においては、NDC 9版の採用、NCR 87年版改訂版の採用に伴うデータ項目の拡充、オンライン入力システムの開発によるデータ作成体制の組み替えといった大きな変更を予定しており、それらを基に、「全国書誌」データ提供サービスの改善に向け、検討を開始したところです。

以下の記事は、和図書の全国書誌データ作成の現状と今後について記したものです。現状の変更を現在検討しておりますので、改善のため、ご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

1. 「全国書誌」データの提供の現状

「日本全国書誌」とは？

国立国会図書館法第七条は、「館長は、一年を越えない定期間毎に、前期間中に、日本国内で刊行された出版物の目録又は索引の出版を行うものとする」と定めており、国内出版物の書誌情報の整備は、国立の図書館としての当館の責務です。当館は、納本制度のもと国内出版物の網羅的な収集に努めており、その書誌データを全国書誌（国としての書誌、National Bibliography）として内外にひろく提供しています。

「日本全国書誌」は、全国書誌データを提供する形態のひとつで、国内出版物の冊子体目録です。「日本全国書誌」の収録資料は、当館が新たに受け入れ整理が終了したものであり、内容的には、当館所蔵国内刊行資料目録の速報版です。しかし、「日本全国書誌」、特にその機械可読形であるJAPAN/MARCに累積された書誌データは、官庁資料や非流通資料を含む網羅性、また典拠となるべく作成されている点において、わが国出版物における基盤データであるといつてよいと思われれます。

現在「日本全国書誌」は、収録されている資料の種類により、以下の表にみるような編成と出版形態により、出版されています。「日本全国書誌」は、図書を本編とし、その他の国内刊行資料を附録として収録しています。JAPAN/MARCは、図書（Monographs）と逐次刊行物（Serials）の2編を頒布しています。

「日本全国書誌」の収録資料・編成・出版形態

冊 子 体				機 械 可 読 形		累 積 版
部編名	収録資料の種類	刊 行 類 度	収録数 (1995)		更 新 頻 度	
本 編	国内刊行図書	週 刊	81; 003	JAPAN/MARC(M)	毎 週	JAPAN/MARC(M) (週及版)
				J-BISC	3 カ月	J-BISC (週及版)
索 引		季 刊				書名著者名索引 (年刊)
						蔵書目録 (5年毎) 児童図書目録 (5年毎)
附録A	小冊子(民間納入)	年2回	426	×		×
附録A	国内刊行 アジア諸言語資料	年1回	39	×		×
附録B	国内刊行 逐次刊行物	月1回	3,193	JAPAN/MARC(S)	年2回	国内逐次刊行物目録 (2年毎)
附録C	録音資料(音楽CD)	年4回	6,405	×		×

図書の「全国書誌」データの提供形態

「日本全国書誌」の中核データになっている図書の場合、書誌データを入力して構築した「和図書」データベースから、様々な媒体で「全国書誌」データを提供しています。カレントなデータを提供するものとしては、「日本全国書誌」本編（冊子体）、「JAPAN/MARC (Monographs)」(磁気テープ)のほか、「J-BISC」(CD-ROM)があります。

「日本全国書誌」本編には、3ヶ月毎に索引が刊行されています。年間索引としては、日本図書館協会から刊行されている「日本全国書誌書名著者名索引」があります。冊子体の累積版としては、「国立国会図書館蔵書目録」(児童書・学習参考書を除く一般図書)、「国立国会図書館所蔵児童図書目録」(児童書)がそれぞれ5年毎に刊行されています。

JAPAN/MARCとJ-BISC

JAPAN/MARCは書誌情報交換用の磁気テープのため、大型コンピューターを必要とし、書誌ユーティリティーを始めとするオンライン目録で主に利用されています。一方、C

D-ROMであるJ-BISCは、パソコンで大量の全国書誌データを簡単に検索でき、またJAPAN/MARCにない検索項目（出版者、外国人名のカタカナ形、副書名のヨミ等）があることから、幅広く利用されています。

JAPAN/MARC (Monographs) については、1977年整理分からカレント版として提供しており、また遡及版（明治期、1948-55、1956-68、1969-76）を頒布しています。収録件数は、明治期が約114,000件、1948-55が約104,000件、1956-68が約167,000件、1969-76が約197,000件、そして1977-95までが約1,103,000件です。1948年以後受入の図書についてみますと、1996年8月末まで約162万件の書誌データを提供していることになります。なお、「国内逐次刊行物目録」の機械可読形である「JAPAN/MARC (Serials)」については、毎回累積更新して提供しており、1996年6月末現在（1996年1号）における収録タイトル数は、100,582件（和逐次刊行物97,345件、洋逐次刊行物3,237件）になっています。

JAPAN/MARC (M) の購入機関数は、国内36機関・海外1機関であり、国内の購入機関の内訳は、県立図書館を中心とする公共図書館が11（31%）、大学（大学共同利用機関を含む）が9（25%）、情報関連の企業等が16（44%）となっています（1996年6月現在）。

J-BISCについては、1984年整理分からカレント版として提供しており、また遡及版（1948-68年：約27万件、1969-83年：約51万件）があります。カレント版の1984-95年までの収録数は、約80万件になります。また明治期のCD-ROMは、NDL CD-ROM Lineとして提供しています。

J-BISCのカレント版の購入機関数は、1,157機関であり、その枚数は1,200枚になります（遡及版は909枚、1996年6月現在）。カレント版の購入機関の内訳は公共図書館が310（27%）、大学図書館が389（33%）、短大・高専図書館が209（18%）、専門図書館・企業が148（13%）、中学・高校が83（7%）、その他18（2%）になっています。

オンライン検索

オンラインでの「和図書」データベースの利用は、現在都道府県立図書館および政令指定都市立図書館の契約館に対して提供されています。データ訂正があった場合、JAPAN/MARC (M) には最近1年分の訂正データを提供、またJ-BISCには最新のディスク（1992～）にのみ反映されますので、最新の更新情報で検索できるのは、オンラインのみとなっています（和図書データベースA077、毎週金曜日更新）。なお、当館ホームページ上における和図書データベースの検索については、9月中旬から一部公開する予定です。

2. 和図書書誌データ作成の現状と今後

和図書書誌データ作成件数と作成体制

当館が1995年度に新たに受け入れた和漢書は、140,680冊でした。これは中国語で書かれた本等も含まれますので、和図書として書誌データ作成部門で受理した数は、99,415冊になります(注1)。出版量の増大、また納本調査業務の機械化が順調に進んだこともあって、当館の受入数もかなり増え、この冊数は、1991年度の受理数81,445冊に比べて、22%増になっています。

和図書書誌データの年間作成数は、ここ2年間漸増し、昨年(1995年)初めて8万件を越え、83,253件になりました(注2)。これは、1993年の71,395件と比較して、17%増になっています。しかし、書誌データ作成数は受入量増加に対応できず、整理の遅れは拡大してしまっているのが現状です。取次経由で受け入れた一般図書と比較してみますと、1992年では当館受入後3カ月で「日本全国書誌」に収録していましたが、1994年では4カ月に、1996年30号では4カ月半かかっています。後に示しました「和図書書誌データ統計」における「刊行年」の当年分の比率が下がっているのは、整理の遅れのひとつのあらわれです。

整理の遅れの解決は、かなり困難な問題ですが、少しでも短縮できる途を模索しています。そのひとつは、和図書整理業務のオンライン化です。現在戦後の和図書のデータベースは、遡及入力分(データベース名A048-1948~68、A069-1969~76)とカレント入力分(A077-1977~)の合わせて3つに分かれています。これをひとつに統合した和図書ファイルをつくり、典拠ファイル(著者名および分類件名典拠データベース)と有機的にリンクさせ、オンラインで書誌データをつくっていかうとするものです。現在の和図書の書誌データ作成体制は、「日本全国書誌」の改題前誌である「納本週報」が機械編纂されるようになった1978年から、基本的な部分は変わっていません。この間、既存データの活用、書名自動カナフリシステムの導入、典拠システムの開発と書誌データ作成への活用、書架番号自動付与システムの導入といった部分的な改善を行ってきましたが、フォーマットおよびバッチ処理を中心とした入力システムは同じです。また書誌データ作成作業は、記述、分類件名付与、図書記号付与、書名標目著者標目付与、最終点検といったように細分化されています。今回、遅まきながらオンライン化を進めており、各種典拠データを整備すると共に、現行の細分化された作業体制を統合する実験を開始したところです。また並行して整理区分の見直しも検討しています。

「和図書」データベースの収録範囲

「和図書」データベースに累積されているデータは、①日本文で書かれた図書(和図書)に加え、②国内刊行欧文図書も含まれています。後者については、「日本全国書誌」・JAPAN

／MARCに収録のため、洋図書データベースから変換し、取り込んでいます。なお和図書については、視覚障害者用資料（点字本、大活字本、視覚障害者用録音資料）、法令議会資料のマイクロフィルム等の資料も含まれています。それ以外の非図書資料は1986年以後入力されていませんが、単行刊行のCD-ROM・マイクロ資料については入力を再開し「日本全国書誌」本編に収録する方向で検討しています。なお、「日本全国書誌」附録Cは、「非図書資料の部」となっておりますが、現在収録されているのは録音資料（音楽CD）のみです。

「日本全国書誌」とJ-BISCの収録範囲の違い

「和図書」データベースに新たに入力された書誌データの大半は、「日本全国書誌」・JAPAN/MARC (M) に収録されますが、①外国で刊行されたもの、②当館設立（1948年）以前に刊行されたものは入っておりません。これは、先述の館法の規定によるものでありますが、この収録範囲についても、日本語資料をすべて収録するといった広義の全国書誌の観点から現在検討中です。「日本全国書誌」非収録分の書誌データは、J-BISCまたは当館和図書データベースA077で検索することが可能であり、後に蔵書目録にも収録されます。（これらのJP番号はJP96-90001等9万台のため識別できます。）

なお、当館における資料区分上、あえて「日本全国書誌」に収録しないものもあります。例えば、小冊子を合冊製本し和図書として整理したもの等で、例として、全集・叢書の月報・付録類があります（注3）。この全集月報・付録類は、1994年793件、1995年1,739件の計2,532件入力し、これらの年における「日本全国書誌」非収録分における中の6割を占めています。また冊子体の楽譜については、1996年からは和図書として受け入れ整理するとともに、未入力分（1986～1995）の入力を開始し、8月6日現在1,076件入力済です。未入力分については、「日本全国書誌」非収録になっています。

（注1） 受理数には、複本を含みます。この数字は書誌データ作成の先端にある記述部門のものですが、ここにおける1995年度の整理冊数は、正本83,609冊・複本11,611冊の計95,220冊、複本の割合は12%でした。

（注2） 「日本全国書誌」・JAPAN/MARCに収録した数は81,003件です。また入力冊数は、書誌データ作成数83,253に、多巻物1,457冊、複本11,979冊を加えた計96,689冊になります。

（注3） 「図書館協力通信」No. 46（1994. 11）p7参照。

3. JAPAN/MARCの今後 —その改善に向けて—

全国書誌データ提供サービスの改善の検討を開始

当館では、全国書誌データ提供サービス全般の改善のための検討を本年6月に開始しました。特に全国書誌データ提供の中核となっているJAPAN/MARC (Monographs)を中心として検討を進めています。

JAPAN/MARC (M) 購入機関に対してアンケートを実施

JAPAN/MARC (M) は、1981年に頒布を開始して以来、15年が経過しようとしています。この間、収録レコード数の拡大、遡及入力 of 推進、アクセスポイントの拡充等を図ってきましたが、タイムラグの短縮を始めとして、利用者からのご要望にはまだ十分にお応えできていないのが現状です。一方、ネットワーク化の進展等による情報環境の激変に対して、当館がJAPAN/MARCを中心とした書誌サービスによって社会的にどのように寄与しうるかも改めて問われています。

このような認識のもと、JAPAN/MARC (M) の購入機関に対して、利用実態の把握とフォーマット改訂を目的として、本年7月19日付でアンケートを実施しました。アンケートの概要は以下の通りですが、改訂項目は、目録規則・データ内容・データ項目と多岐に亘るものとなっています。

当館では、今回のJAPAN/MARC (M) の改訂を契機として、全国書誌データ提供サービスの改善案を策定し、実行していきたいと考えています。

なお、今回予定しているJAPAN/MARC (M) の改訂は、J-BISCや冊子の「日本全国書誌」における変更に即つながらるものではありません。NCR87年版改訂版の採用に伴いデータ内容が部分的に変更することがありますが、当面現行通りの形で提供していきます。(なお、JAPAN/MARC (M) の改訂内容の一部は、機械処理によりすでにJ-BISCにおいて実現している部分があります。)

アンケートの概要

1. JAPAN/MARC (M) の利用実態

(利用開始年月日、利用書誌レコードの範囲、利用形態、利用目的)

2. JAPAN/MARC (M) の当面の改善策について

(前提)

日本目録規則 1987年版改訂版(以下NCR87)及び日本十進分類法9版(以下NDC9版)を段階的に採用する。

*NCR87の採用は、データ項目の追加等を伴いますので、採用の方法、時期等は、このアンケートの結果を踏まえて決定する予定です。

現在の時点で決定している主な点は以下の点です。

- (1) 現行通り、単行単位ないし多冊出版物では物理単位の記録を基本とする。いわゆる一括記入は原則として行わない。
- (2) 記述の精粗は、第2水準(標準の書誌的事項)を採用する。
- (3) 出版年は、最新の刷りの出版年ではなく、最初の刷りの出版年を記録する。(NCR87の2.4.3.1)

*NDC9版は、平成9年1号(JP97)から、採用の予定です。

(予定)

当面の改善は、2段階に分け、第1段階は、JAPAN/MARC(M)のデータ項目(フォーマット)の新設・変更を伴わないものに行う予定で、来年1号を目途にしております。第2段階は、主としてデータ項目の新設・変更を伴う事項で、これにつきましては、利用者アンケート調査、懇談会等での意見聴取を踏まえて、来年度以降に実施する計画です。

2-1 第1段階における変更(平成9年1号からの変更)

NDC9版の採用

著者標目・件名標目における若干の変更

2-2 読みのデータの付与基準の変更について（第2段階における変更）

2-2-1 タイトル（書名）の読みの基準の変更

（タイトルの一部にアルファベットを含む場合、およびタイトルの一部に数字を含む場合、日本語読みを与えずに、そのままローマ字および数字で表記することに変更する。）

例) 書名：251A はじめてのWindows 95

現行：551A ハジメテ ノ ウインドウズ クジュウゴ

551X Hazimete no 《Windows》 kuzuyugo

変更：551A ハジメテ ノ Windows 95

551X Hazimete no 《Windows》 95

2-2-2 著者標目・件名標目の読みの項目についても同様に変更

例) 現行：751B CM研究会

751A シーエム ケンキュウカイ

751X 《CM》 kenkyukai

変更：751B CM研究会

751A CM ケンキュウカイ

751X 《CM》 kenkyukai

2-2-3 件名標目ローマ字形における原綴形の廃止

2-3 データ項目の追加について（第2段階における変更）

<記述ブロック>

1. 3人以上の著者の場合でも、すべての著者を責任表示および著者標目に記録。
2. 並列タイトル（並列書名）を記録する項目の新設。
3. シリーズの責任表示を記載する項目を新設。
4. 並列シリーズ名、シリーズ名関連情報を記載する項目を新設。
5. シリーズのISSNを記載する項目を新設。
6. 複数のシリーズの項目化。

6. 複数のシリーズの項目化。
7. 付属資料の記録を一般注記から形態に関する事項に移し項目化。
8. 内容細目の著作名（タイトル）及び著者名を区切り記号で識別。
9. I S B Nエラーコードの項目の新設。

<アクセスポイント・ブロック>

10. すべてのシリーズの読みを記録。
11. タイトル関連情報（副書名）の読みの新設。
12. 出版者の読みの新設。
13. シリーズの編者の標目の新設。
14. 著者標目の典拠レコード番号の項目を新設。
15. NDCの版次を示す項目の新設。

<その他の項目>

16. レコードラベルに記録の書誌レベルを明示。
17. コード化情報（主題地域コード、出版地（都道府県）コード、官庁コード、資料形式コード）の項目を新設。
18. レコードラベルのレコードの種別に非図書資料コードを追加。

(図書整理課全国書誌係)

和図書書誌データ統計

特に表示がない場合単位は件

		1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
書誌データ作成数		71,851	69,714	71,395	76,057	83,253
内訳1	全国書誌収録数	70,635	69,339	71,278	74,179	81,003
	1号平均	1,413	1,387	1,426	1,484	1,620
	最少収録号	1号(1,108件)	47号(1,074件)	3号(1,191件)	6号(1,225件)	4号(1,343件)
	最多収録号	40号(1,626件)	20号(1,654件)	40号(1,673件)	30号(1,741件)	49号(2,004件)
	全国書誌非収録数	1,216	375	117	1,878	2,250
内訳2	和 図 書	70,905	69,496	69,879	74,851	82,147
	国内刊行欧文図書	946	218	1,516	1,206	1,106
内訳3	官庁出版物	10,591	9,383	11,380	12,963	15,258
	%	14.7%	13.5%	15.9%	17.0%	18.3%
	民間出版物	61,260	60,331	60,015	63,094	67,995
	%	85.3%	86.5%	84.1%	83.0%	81.7%
官庁出版物	中央官庁	3,643	3,274	4,423	4,605	4,740
	%	34.4%	34.9%	38.9%	35.5%	31.1%
内訳	地方自治体	6,424	5,592	6,554	7,863	9,832
	%	60.7%	59.6%	57.6%	60.7%	64.4%
	国公立大学	524	517	403	495	686
	%	4.9%	5.5%	3.5%	3.8%	4.5%
ISBN	件 数	41,373	45,342	46,567	49,213	53,255
	%	57.6%	65.0%	65.2%	64.7%	64.0%
刊行年	前々年	16.2%	10.9%	11.1%	13.1%	13.4%
	前年	38.1%	38.2%	38.5%	40.0%	45.0%
	当年	45.7%	50.9%	50.4%	46.9%	41.6%
和図書整理 区分別	A 一般図書	62,144	59,146	58,887	61,185	67,116
	%	87.6%	85.1%	84.3%	81.7%	81.7%
	B コミック等	3,052	4,212	4,803	5,614	7,074
	%	4.3%	6.1%	6.9%	7.5%	8.6%
	C 児童書	3,539	3,724	3,654	3,726	3,833
	%	5.0%	5.3%	5.2%	5.0%	4.7%
	D 試験・学参書	2,170	2,414	2,535	3,424	3,199
	%	3.1%	3.5%	3.6%	4.6%	3.9%
E 官庁小冊子	0	0	0	902	925	
%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.1%	

(図書整理課全国書誌係)

国立国会図書館ホームページについて

当館では、開館記念日にあたる6月5日に、インターネット上にホームページを開設した。その内容を簡単にご紹介する。

1. 掲載内容

当館は、次のように紹介や案内を主とするものになっている。

(1) 国立国会図書館の紹介

「沿革」「特色・役割」「組織」「所蔵資料・コレクション」「主な刊行物」「建物と設備」の6項目から構成されており、当館の自己紹介のページである。

(2) 総合案内

「当館の利用について」「利用の手続き」「目録の調べ方」「閲覧室・資料室案内」「非来館利用について」「支部上野図書館」「支部東洋文庫」の7項目に分け、当館を利用する場合に必要な情報を掲載している。最初の項目には来館利用者の便宜のため開館カレンダーを載せているので、休館日が不確かな場合にはここで確認することができる。また、遠隔地利用者のために、公共図書館を介して当館の資料を利用するための案内も掲載した。

(3) 国立国会図書館ニュース

現在の構成は「記者発表」「NDLニュース」「催し物案内」「お知らせ」「新しい刊行物」「職員採用試験について」の6項目である。

「記者発表」は8月に新設した項目で、当館がマスコミに公表した内容を掲載しており、当館に関する最新情報を見ることができる。「NDLニュース」以降の欄は、主として当館の『月報』最新号の記事から抜粋して掲載している。「催し物案内」では、展示会、シンポジウム、講演会など当館で開かれる一般参加が可能なイベントを広く紹介していく予定である。

(4) 納本案内

「出版物納入のお願い」として、新規に刊行した出版物を当館に納本するように呼びかけ、納本の手続きを案内している。

(5) NDLギャラリー

当館所蔵の古典籍資料または貴重書の中からすでにデジタル化されているものを中心にこのギャラリーで展示していく予定であるが、現在はまだ試行中で、展示会図録等からデジタル化した図版を掲載している。

(6) 英文ホームページ

日本語版と構成が異なり、“National Diet Library Newsletter”, “Services”, “Out-

look of NDL"の3部から成る。最初の項目は、当館が外国の図書館向けに発行している同名の広報誌から抜粋して掲載しており、日本語版にない記事も若干含まれている。

2. 検索法

http://www.ndl.go.jpにアクセスするとホームページが現れる(図1)。それぞれの見出しをクリックすれば該当ページに行くことができる(図2)。この原稿執筆時点の9月上旬では、「和図書・和雑誌の情報検索」は準備中である。

英文ホームページは、竹取物語絵巻と当館建物を合成した扉絵の下の[English Page Here]から跳ぶことができる(図3)。

また、更新に関する情報は"What's New!"で確認することができる。

3. 今後の予定

(1) 和図書・和雑誌についての情報

当館に納本された資料の書誌データを提供する頁で、現在和図書のシステムを準備しているところであり、9月半ばに公開する予定である。提供するデータの範囲は最新1年分で、毎月1回更新する。検索項目は書名、著者名、出版者の3つである。

(2) 関西館・児童書センター等のプロジェクトの進捗状況報告

NDLニュースにも断片的に掲載されるが、独立した項目を設けて、プロジェクトの説明や現況報告を掲載する予定である。また、現在当館で進行中の電子図書館関係の実験等についても、ここで紹介することになっている。

(3) 図書館業務のための技術情報

目録規則、分ち書き規則、新設件名など目録業務に関連するさまざまな情報を随時お知らせする予定で、実務者向けのページである。

(4) 各資料室の案内、資料の案内

現行のホームページでは、所蔵資料やコレクションの紹介、専門資料室の案内はごく簡単なものにすぎないので、今後各資料室の扱う資料の説明や利用の仕方などをさらに具体的に紹介してゆきたいと考えている。

(5) 電子メールによる利用者からの意見の受け

現時点では当館からの情報の提供だけに留まっているが、今後、電子メール等で利用者の声をきき、ホームページの改善の参考にしたいと考えている。

(総務課 広報係)



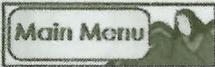
図 1

Netscape - [記者発表]

File Edit View Go Bookmarks Options Directory Window Help



記者発表



- 平成9年度予算概算要求について (平成8年8月29日)
- 国立国会図書館関西館(仮称)建築設計競技 応募作品審査の結果について (平成8年8月22日)
- CD-ROM閲覧サービスの開始 (平成8年8月15日)
- 政治史料課(審政資料室)の新聞公開文書について (平成8年8月12日)
- 国立国会図書館関西館(仮称)建築設計競技 応募作品提出数について (平成8年7月31日)

平成8年8月29日

平成9年度予算概算要求について

(1) 概算要求の総額

総額 168億6807万円を要求
 (8年度当初予算額167億5707万円に較べ約0.7%増)

(2) 概算要求の重点事項

1. 国立国会図書館関西館(仮称)建設準備経費

基本設計費(継続)	1億8000万円
実施設計費(初年度分)	2億4000万円
土地取得費	11億円

2. 国会サービス関連経費

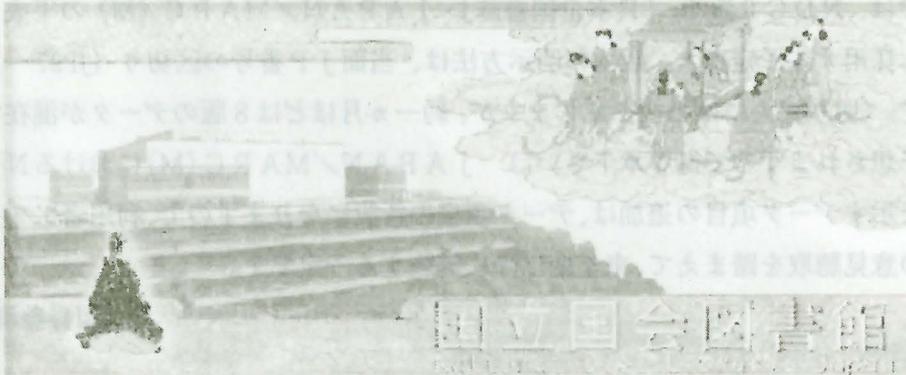
国会会議員データベース(継続)	1億1000万円
国会レファレンス総合システム(継続)	4800万円

? 検索の検索メニューはこちら

Document Done

図 2

Welcome to the National Diet Library, Japan



This page is provisional version.

[JAPANESE Page Hexel]

1. [History of NDL](#)
2. [Organization of NDL](#)
3. [Special Features of NDL](#)
4. [Collection and Preservation of Materials](#)
5. [Major Collections](#)
6. [Catalogs, Bibliographies and Indexes](#)
7. [Use of Materials](#)
8. [Legislative Research](#)
9. [Reference Service](#)
10. [Interlibrary Cooperation](#)
11. [Services for the Visually Handicapped](#)
12. [Automation](#)
13. [Guide to the Reader Service](#)
14. [Guide to Reading Rooms and Materials Rooms](#)
15. [Principal Publication](#)

National Diet Library

10-1, Nagatacho, 1-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 100, Japan

TEL:03-3581-2331

NDC（日本十進分類法）9版の採用について

当館では、NDC 9版を、「日本全国書誌」・JAPAN/MARC (M) の平成9年1号から採用する予定です。版次の明示方法は、当面JP番号の区切り (JP97～) によります。(切り替えには万全を期しますが、約一ヵ月ほどは8版のデータが混在することも予想されますので御了承下さい。) JAPAN/MARC (M) におけるNDCの版次を示すデータ項目の追加は、データ項目の新設になりますので、利用者アンケート等での意見聴取を踏まえて、来年度以降に実施する予定です。

(図書整理課)

問合せ先

国立国会図書館 03 (3581) 2 3 3 1 (代表)
(ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>)

日本全国書誌 (図書) ……………	図書部図書整理課	(内) 3 5 2 0
		※ 03 (3506) 3 3 5 8
日本全国書誌 (逐次刊行物) ……	収集部国内資料課	(内) 3 1 5 7
		※ 03 (3506) 3 3 5 4
ジャパン・マーク……………	総務部情報処理課	(内) 2 4 0 1
		※ 03 (3506) 3 3 2 6
印刷カード……………	図書部図書整理課全国書誌係	(内) 3 5 1 7
		※ 03 (3506) 3 3 6 1
国立国会図書館蔵書目録……………	図書部書誌課	(内) 3 6 0 1
		※ 03 (3506) 3 3 6 2
書誌データの内容について		
記述……………	収集部国内資料課	(内) 3 0 1 5
標目 (著者・書名) ……………	図書部図書整理課著者書名係	(内) 3 5 2 4
		※ 03 (3506) 3 3 5 9
標目 (分類・件名) ……………	図書部図書整理課分類件名係	(内) 3 5 2 6
		※ 03 (3506) 3 3 6 0
出版社の住所の照会について		
図書館から……………	図書館協力部国内協力課図書館サービス係	(内) 5 1 1 5
民間から……………	収集部収集課納本調査係	(内) 3 0 1 3
		※ 03 (3506) 3 3 5 1

※直通電話 交換を通さず、直接担当の係につながります。

全国書誌通信 (不定期刊)

No. 97 1996年9月30日発行

(『印刷カード通信』の改題)

編集・発行 国立国会図書館図書部整理課

〒100 東京都千代田区永田町1-10-1

03 (3581) 2 3 3 1 (代)